

令和5年度

自己評価報告書

令和6年7月2日

医療法人おもと会 沖縄リハビリテーション福祉学院

目 次

1 学院の理念、教育目標	1	4-14 資格・免許の取得率	28
2 本年度の重点目標と達成計画	2	4-15 卒業生の社会的評価	29
3 評価項目別取組状況	3	基準5 学生支援	30
基準1 教育理念・目的・育成人材像	4	5-16 就職等進路	31
1-1 理念・目的・育成人材像	6	5-17 中途退学への対応	32
基準2 学院運営	9	5-18 学生相談	33
2-2 運営方針	10	5-19 学生生活	34
2-3 事業計画	11	5-20 保護者との連携	37
2-4 運営組織	12	5-21 卒業生・社会人	38
2-5 人事・給与制度	14	基準6 教育環境	39
2-6 意思決定システム	15	6-22 施設・設備等	40
2-7 情報システム	16	6-23 学外実習、インターンシップ等	41
基準3 教育活動	17	6-24 防災・安全管理	42
3-8 目標の設定	18	基準7 学生の募集と受入れ	44
3-9 教育方法・評価等	19	7-25 学生募集活動	45
3-10 成績評価・単位認定等	22	7-26 入学選考	47
3-11 資格・免許の取得の指導体制	23	7-27 学納金	48
3-12 教員・教員組織	24	基準8 財務	49
基準4 学修成果	26	8-28 財務基盤	51
4-13 就職率	27	8-29 予算・収支計画	53
		8-30 監査	54
		8-31 財務情報の公開	55
		基準9 法令等の遵守	56

9-32	関係法令、設置基準等の遵守.....	57
9-33	個人情報保護.....	58
9-34	学校評価.....	59
9-35	教育情報の公開.....	60
基準10	社会貢献・地域貢献.....	61
10-36	社会貢献・地域貢献.....	62
10-37	ボランティア活動.....	63
4	令和5年度重点目標達成についての自己評価.....	64

1 学院の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p data-bbox="600 427 712 459" style="text-align: center;">教育理念</p> <p data-bbox="241 523 1108 746">「真・善・美」の全人教育を基盤として、「生命の尊さ」への深い理解と「人間愛」を育み、豊かな知性、感性、強い意思のある人間を形成し、専門職業人としての誇りと向上心を培う。「知行合一」の精神で現代社会や保健・医療・福祉をめぐる環境の変化に対応し、社会に貢献できる有能な人材を育成する。</p> <p data-bbox="600 858 712 890" style="text-align: center;">教育目的</p> <p data-bbox="206 954 1108 1129">教育の理念に基づき、「ひと」として豊かな教養と人間性を養い、医療・福祉における専門職として兼ね備えるべき知識・技術を習得するとともに、主体的な学習、深い洞察力とたゆまぬ探究心に基づく行動や問題解決ができる前途有為の専門職業人を育成することを目的とする。</p>	<ol data-bbox="1137 478 2078 1034" style="list-style-type: none">1. 医療・福祉における専門職としての知識、技術を深め、常に主体的に深める態度を身につけます。2. チーム医療および福祉の一翼を担う専門職として、果たすべき役割と責任を自覚し、協調する態度を身につけます。3. 専門職として、その科学を推進するため常に研究する態度を身につけます。4. 専門職としての職業倫理のみならず、「ひと」としての倫理観を高める態度を身につけます。5. 障がいや高齢者などへの理解を深め、「ひと」への豊かな感性を養い人格を尊重するとともに触れ合いを大切にします。6. 社会人として健全な生活態度と習慣を身につけるとともに、他者および地域社会に対して利他的行動がとれるように努めます。

2 本年度の重点目標と達成計画

令和5年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>1. 「真・善・美」の全人教育の実施</p> <p>2. 教育目標の達成</p> <p>3. 国家試験合格率全国平均以上の水準を目指す</p> <p>4. 就職率 100%の継続</p> <p>5. 学院運営の安定</p> <p>6. 学生支援の充実</p>	<p>1. 「真・善・美」の全人教育の実施 日常の学院生活の中で、「主体的に深める態度」、「協調する態度」、「倫理観を高める態度」、そして「健全な生活態度と習慣」を身につけるよう支援する。</p> <p>2. 教育目標の達成</p> <p>1) 自己学習の習慣化 (1) 入学前・入学後講座の充実。 (2) 補習の充実。</p> <p>2) 在学中の支援 (1) こまめな個人面談。 (2) 効果的なこころと体のヘルスケアセンターとの連携</p> <p>3) 臨床（臨地）実習の支援 (1) 実習前・実習中・実習後の教員による学生サポート (2) 複数実習生対応の県内実習施設の開拓 (3) 個人情報保護および守秘義務の周知およびリスクマネジメント指導</p> <p>3. 国家試験合格率全国平均以上の水準を目指す</p> <p>1) 学生の到達度に応じた国家試験対策の計画や実施ならびに評価。 2) 模擬試験成績不振学生の原因分析と対策</p> <p>4. 就職率 100%を継続する</p> <p>5. 学院運営の安定</p> <p>1) 学生募集の強化（意欲のある学生の早期確保） (1) 広報活動 (2) 入学試験の実施方法の検討 (3) 合格者数の出し方の検討</p> <p>2) 自己点検・自己評価の推進 3) 予算すなわち決算の順守 4)</p> <p>6. 学生支援の充実</p> <p>1) こころと体のヘルスケアセンターとの連携 2) 防災訓練の実施 3) 学業不振学生の支援と家族との連携</p>

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・教育目的・教育目標は明確に定められており、学院案内やホームページなどに明記している。育成人材像や教育課程は教育理念を実現する内容になるようにした。学生への周知は学科毎に入学前オリエンテーションならびにホームルームにて実施している。保護者への周知方法については、学院便覧に記載されている旨を入学時保護者会にて周知している。学科毎では指定規則等に準じてカリキュラム等の変更を行っているが、夜間部募集停止については周知している。学院の学校法人化に関する検討に関して議論する段階である。</p>	<p>学校法人化については将来構想を検討するための情報収集を行うとともに、学校関係者評価委員ならびに教育課程編成委員よりご助言をいただく。</p>	<p>学校法人化の議論</p>

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	①理念に沿った目的・育成人材像になっているか ②理念等は文書化するなど明確に定めているか ③理念等において専門職業人の特性は明確になっているか ④理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか ⑤理念等を学生・保護者、関連業界等に周知しているか ⑥理念等の浸透度を確認しているか ⑦理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか	4	①②理念に沿った目的・人材育成像である。 ③理念には人として医療・福祉の専門職業人としての特性が明確である。 ④学科毎に目標・計画を明確にし、教育事業計画書に記載している。 ⑤学生ならびに保護者へは学科毎に説明がなされている。また、ホームページにて一般公開している。 ⑦適宜、カリキュラムの評価修正を行い、教育理念の実現に努めている。			医療六法 社会福祉六法 教育事業計画書 学院便覧 シラバス 学院案内

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	①学科毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか ②教育課程、授業計画（シラバス）等の策定において関連業界等からの協力を得ているか ③専任・兼任（非常勤）にかかわらず教員採用において関連業界等からの協力を得ているか ④学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか ⑤教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか	4	①学科毎に求められる要件は明確にしている。 ②教育課程の策定は厚生労働省のガイドラインに基づく内容を十分満たしており、実習施設からの意見も参考にしている。 ③教員採用は、各専門職業人としての臨床経験を重視し、各職種の関係者の協力を得ている。 ④実習は厚生労働省に申請認可された実習施設の協力を得ている。また各実習施設の協力を得るため実習指導者会議を開催。 ⑤学内演習に実習施設の指導者に協力頂けている。			教育事業計画書 臨床・臨地実習指導者会議録 学院便覧 シラバス 実習要項 学院案内
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	①理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか ②特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	4	①②臨床・臨地実習をはじめ、各学科にて職業特性を考慮した職業実践教育が行われている			教育事業計画書 シラバス 実習要項 学院案内

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	①中期的(3~5年程度)視点で、学院の将来構想を定めているか ②学院の将来構想を教職員に周知しているか ③学院の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	3	①指定規則や専門職団体が作成したコアカリキュラムならびに専門職団体より情報収集を図り、学院の将来構想を定めている。②教職員会議にて共有している。 ③将来構想について HP や教育課程編成委員会等を通して周知している。	③学生・保護者・関連業界等への周知に関しては不十分である。	③周知に努める。	教育事業計画書 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則 言語聴覚士養成所指定規則 社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則 学院便覧 シラバス 実習要項 学院案内

基準 2 学院運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念等に沿った運営方針を教育事業計画にて定め、中期計画についても教職員で共有を図っている。全職員によるブレインストーミングを行うことで、課題を共有し、一緒に解決策を考える場ができたことで、職員の一体感が生まれてきた。学生管理システムへの出席状況や成績等の入力に適宜行えるようになったが、学生指導内容の入力等、一部活用できていない部分もある。</p>	<p>情報システムの活用による業務改善を継続的に模索する。</p>	

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	①運営方針を文書化するなど明確に定めているか ②運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか ③運営方針を教職員等に周知しているか ④運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	4	①②については学科毎に教育事業計画書に定め文書化している。 ③④教職員会議等で概要を周知している。			教育事業計画書

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	①中期計画(3～5年程度)を定めているか ②単年度の事業計画を定めているか ③事業計画に予算、事業目標等を明示しているか ④事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか ⑤事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか	4	①中期計画を定め、適宜、見直しを行っている。 ②③④教育事業計画は文章化され、年度初めに教職員に周知されている。 ⑤事業計画達成度の見直しについては学科毎に実施されている。教育課程の進行については座学・演習および臨床実習において達成できた。			教育事業計画書

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	①理事会、社員総会は、定款に基づき適切に開催しているか ②理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか ③定款は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	①定款に基づき理事会、社員総会は適切に開催している。 ②理事会等の議事録は作成されている。 ③定款の変更等は必要に応じて適正されている。司法書士、弁護士の助言も得ている。			医療法人 おもと会定款 理事会審議資料 教育事業計画 学院便覧
2-4-2 学院運営のための組織を整備しているか	①学院運営に必要な事務及び教員学生組織を整備しているか ②現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか ③各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか ④会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか ⑤会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか ⑥組織運営のための規則・規程等を整備しているか ⑦規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	①事務及び教員学生組織は整備されている。 ②事務部の組織見直しを行った。 ③各組織で組織分掌が作成されている。 ④⑤学則に規定されている。 ⑥⑦規則や規程は整備され、各会議体にて議論し改正や新たな規定を整備している。			医療法人 おもと会定款 理事会審議資料 教育事業計画 学院便覧 リハビリテーション教育評価認定審査資料

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	⑧学院の組織運営に携わる職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか	4	<p>⑧人事評価制度の導入、及び研修機会を設ける等、意欲及び資質の向上に取り組んでいる。また、おもと会の「心と体のヘルスケアセンター」が設置され、職員・学生の要望に合わせて、校内及び外部でカウンセリングを受けることができる。</p> <p>昨年度に引き続き、月1回ブレインストーミングを全教職員で行い、教職員の意見を学院の改善計画に反映する取組みを行っている。</p>			

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	①採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか ②適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか ③給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか ④昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか ⑤人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	4	①について指定規則規程等で定められた基準を基に、学生指導に必要な経歴を考慮するなど適切に運用している。 ②各職能関係やおもと会グループリクルートサイト、ハローワーク等を活用し広報している。 ③給与規程は整備されており、適切に運用されている。 ④は関係部署の協議にて運営している。 ⑤規定を定め実施している。			就業規則 人事規程 給与規程 教育事業計画書

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	①教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか ②意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか ③意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	4	①②③教育事業計画において各学科の組織図及び役割分担が明確化されている。			教育事業計画書

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<p>①学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか</p> <p>②情報システムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか</p> <p>③学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか</p> <p>④データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか</p> <p>⑤システムのメンテナンス及びセキュリティー管理を適切に行っているか</p>	4	<p>①情報管理システムを構築している。②学生管理システムの改善を行っている。また、Microsoft 365 Education によりタイムリーな情報提供が行われている。</p> <p>③学生指導内容が適宜入力できていない。</p> <p>④定期試験結果や出席状況が適時入力されている。</p> <p>⑤おもと会システム課の職員が常時対応している。昨年に引き続き、重複業務に伴う業務負担軽減を学籍管理システムの改修を図った。</p>	Microsoft 365 A1 の仕様変更等の懸念。A3 との違いを検討。	業務改善を図るため引き続きシステム改善を会社と調整を行う。	<p>学生生活の手引き（学生心得）</p> <p>学生情報公開手続き手順</p>

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念等に沿った教育課程を編成し、各学科の課程で国家資格取得を目標に教育課程は編成して支援している。また、教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているが、適切な教育内容や授業形態を選択できるよう養成校連絡協議会等主催する研修会などの参加者による伝達講習会や外部講師を招聘した講習会等の実施に向けて取り組む。</p> <p>教育課程について、卒業生や実習訪問時や専門職団体に所属している非常勤講師および教育課程編成委員会より意見をいただいている。</p> <p>国家資格取得に必要な科目は必須科目としており、国家試験全員合格を目指して取り組んでいる。あわせて国家試験不合格者に対しても在校生同様に支援できるよう取り組んでいる。</p> <p>教員についても各専門職養成所指定規則に遵守し、資格・要件を備えた教員を確保している。</p> <p>更なる授業内容・教育方法の改善に取り組むべく、授業科目担当教員間の連携・協力体制を構築する。</p>	<p>必要な教員講習会を開催する。 伝達講習会等の開催 キャリア教育の評価指標について検討する。 職能団体との連携による研修や研究について検討する。 臨床研修の機会を確保する。</p>	

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	①教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか ②職業教育に関する方針を定めているか	4	各学科で定めている。			教育事業計画 学院便覧 学院案内 シラバス 実習要項
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	①学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか ②教育到達レベルは、理念等に適合しているか ③資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか ④資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	4	①②目標とする教育到達レベルは各学科にて明示されており、理念等の適合している。 ③各職種の資格・免許取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしている。 ④取得指導・支援体制を整備している。			学院便覧 学院案内 シラバス 実習要項

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	①教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか ②議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか ③授業科目の開設において、専門科目、一般科目等を適切に配分しているか ④修了に係る授業時数、単位数を明示しているか ⑤授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか ⑥授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか ⑦授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか ⑧職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	4	①②③④⑤⑥適切に対応している。各学科にて指定規則ならびにガイドラインを参考に編成している。 ⑦⑧学習指導は充実しており、講義・演習・実習等を適切に配分している。			学院便覧 シラバス 実習要項 時間割

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	⑨職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか ⑩授業科目について授業計画(シラバス)を作成しているか ⑪教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか		⑨養成校連絡会等が開催する研修会に参加しており、学科毎に情報共有し活用している。 ⑩シラバスを作成している。 ⑪教育課程については、適宜、見直しを行なっている。	⑨研修会参加者による教務部内での情報共有	伝達講習会の開催	
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	①教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか ②教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか ③職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	4	①②③在校生からの意見聴取のためのアンケートを実施している。卒業生については実習施設訪問時や同窓会で意見聴取している。 ③については実習施設訪問時等に情報収集を行なっている。			授業評価アンケート

3-9-3 キャリア教育を実施しているか	①キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか ②キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	4	①②について各学科にて方針を定めており、臨床・臨地実習ならびに前後の学習過程にて臨床のセラピストの方々にご指導いただいている。			
----------------------	--	---	---	--	--	--

3-9 (3/3)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	③キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか		③については情報収集に留まっている。	③キャリア教育の効果に関する評価指標		
3-9-4 授業評価を実施しているか	①授業評価を実施する体制を整備しているか ②学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか ③教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	4	①②専任教員の授業は行っている。 ③学内演習に関わって頂いている非常勤講師より情報を頂いている。アンケートの内容に応じて協議した上でフィードバックしている。	①②外部講師の確保に難渋していることもあり、間接的にフィードバックを行っている。		授業評価分析結果

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・ 修了認定基準を 明確化し、適切に 運用しているか	①成績評価の基準について、 学則等に規定するなど明確 にし、かつ、学生等に明示し ているか ②成績評価の基準を適切に 運用するため、会議等を開く など客観性・統一性の確保に 取組んでいるか ③入学前の履修、他の教育機 関の履修の認定について、学 則等に規定し、適切に運用し ているか	4	①②学院便覧に明示し 入学時に学生および保 護者に説明している。ま た、単位認定および卒業 認定は認定会議で適正 に判定している。 ③規定に照らし認定し ている。			理学療法士作業療法 士学校養成施設指定 規則 言語聴覚士学校養成 所指定規則 社会福祉士介護福祉 士学校指定規則 学院便覧 シラバス 単位認定会議資料

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	①取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか ②資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	4	①②各学科にて取得できる、資格・免許の内容に関連する授業科目や国家試験対策を明確にしている。			学院便覧 時間割 シラバス
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	①資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか ②不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	4	①各学科で指導体制が整備されている。 ②不合格者に対しては、模擬試験受験ならびに国家試験受験の手配や、国家試験特別講義の開催受講などの支援を行っている。			教育事業計画 学院便覧 シラバス 国家試験対策計画表 全国模擬試験結果

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<p>①授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか</p> <p>②授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか</p> <p>③教員の知識・技術・技能レベルは、臨床等のレベルに適合しているか</p> <p>④教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか</p> <p>⑤教員の採用計画・配置計画を定めているか</p> <p>⑥専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか</p> <p>⑦教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか</p> <p>⑧教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか</p>	4	<p>①②③は各専門職養成所指定規則を遵守している。</p> <p>④⑤教員の採用計画に基づき配置している。</p> <p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任・兼任の比率 PT:専任13名(9.6%)、兼任122名(90.4%) OT:専任9名(8.0%)、兼任104名(92.0%) ST:専任5名(3.8%)、兼任128名(96.2%) 介護:専任3名(8.3%)、兼任33名(91.7%) ・専任教員年齢構成 PT:30代2名、50代8名、60代2名 OT:30代2名、40代2名、50代4名、60代1名 ST:20代1名、30代2名、40代2名 介護:30代1名、50代2名、 ・専任教員男女比 PT:女性1名、男性12名 OT:女性5名、男性4名 ST:女性3名、男性3名 介護:女性1名、男性2名 <p>⑦規程にて定めている。</p> <p>⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人当たり授業時間数(平均) 理学療法学科 322h 作業療法学科 142h 言語聴覚学科 232h 介護福祉学科 418h ※3/16 入力分 ・一人当たり学生数(在校生比) 理学療法学科 18.4名 作業療法学科 8.6名 言語聴覚学科 13.8名 介護福祉学科 15.0名 	③一部、臨床経験する機会がない教員がいるため、臨床と座学の乖離が起こる可能性がある。	③臨床研修機会を確保する。	<p>理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則</p> <p>言語聴覚士学校養成所指定規則</p> <p>社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則</p> <p>就業規則</p> <p>教員名簿</p> <p>AcaDEmix(学籍管理システム)</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	①教員の専門性、教授力を把握・評価しているか ②教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか ③関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか ④教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	4	①教員の専門性については学科内で把握している。教授力の把握については学生へアンケートを実施した。 ②④学会発表や研修会参加のための予算は確保されている。 ③④長期講習会や養成校連絡協議会主催および職能団体主催研修会に参加している。			教育事業計画書 学会研修参加計画 学会発表一覧
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	①分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか ②教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか ③学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか ④授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか ⑤専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	4	①不足している領域については非常勤講師にカバーしていただいている。 ②学科毎で定めている。 ③連携協力体制は自主的に行われている。 ④学科内での取り組みや、各学科から集まり教育懇談会を運営している。 ⑤担当教員にて連携を図っている。			教育事業計画

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>0 就職率は 100%を目標に取り組んでおり、就職活動は学生ならびに関係機関と連携しながら効率的かつ計画的に取り組んでいる。PT・OT・ST 学科の就職説明会は 7 月と 10 月に県内 79 施設、県外 124 施設が参加して開催した。介護福祉学科は 10 月に就職説明会を実施した。就職状況については各学科にて把握し適切に管理している。</p> <p>昨年度は全学科での国家試験合格率全国平均以上の水準を維持することができなかった。改めて原因分析を行った上で計画を立てて、特別講義の開講や学生の個別指導を行った。</p> <p>令和 5 年度新卒の国家試験合格率は、PT 学科 100%（全国 95.3%）、ST 学科 90.9%（全国 87.3%）は全国平均と比較して高い合格率であった。介護福祉学科は 77.8%と全国合格率 82.2%と比較して低い結果となったが、日本人学生では 100%と全国合格率 95.9%と比較して高い結果となった。OT 学科は 76.1%と昨年度 71.4%より高い結果となったが、全国合格率 91.6%よりは低い結果となった。成績下位層の分析ならびに対策が不十分と考えられる。</p> <p>卒業生動向や社会的評価については専任教員と就職担当事務員と連携して卒後の実態を把握している。</p>	<p style="color: red;">成績下位層の①1 年時からの学習習慣を身に着けさせることと、②最終学年時に再分析や課題解決に向けた取り組みが必要。途中でモチベーション低下による学習停滞を予防するための手立てが必要である。</p>	

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	①就職率に関する目標設定はあるか ②学生の就職活動を把握しているか ③専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか ④関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか ⑤就職率等のデータについて適切に管理しているか	4	①②就職率 100%を目標に取り組んでいる。 ③⑤就職状況は把握し管理している。 ④PT・OT・ST 学科では7月と10月の2回、県内79施設・県外124施設が参加して実施した。介護福祉学科は10月に就職説明会を実施した。			進路一覧表 県内県外就職説明会資料 求人票資料

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	<p>①資格・免許取得率に関する目標設定はあるか</p> <p>②特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか</p> <p>③合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか</p> <p>④指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか</p>	3	<p>①合格率全国平均以上の水準を目指している。</p> <p>②専任教員および非常勤講師による特別講義を開講している。</p> <p>③全国水準と比較し、結果の分析を行っている。</p> <p>PT：新卒100%（全国：95.3%） OT：新卒76.1%（全国：91.6%） ST：新卒90.9%（全国：87.3%） 介護：新卒77.8%（全国：82.8%） ※除留学生：100%（全国：95.9%）</p> <p>PT・ST・介護福祉学科(留学生を除く)新卒者の合格率が全国平均を上回った。</p> <p>④3年次（最終学年）に加えて、1・2年国試対策ミーティングにて1年次より国家試験対策に取り組んでいる。</p>	<p>④成績下位層の分析が課題。結果を受けて国試対策講義や模擬試験を受けない学生に対する取り組みが必要。</p>	<p>④成績下位層を早期に抽出し、模擬試験やミニレクチャーや面談を行い、最後まで勉強し続けられる環境を整える。</p>	<p>学院便覧 国家試験対策計画表 全国模擬試験結果 過去3カ年間の国家試験合格一覧</p>

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	①卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか ②卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	①県内施設および県外実習施設については各学科専任教員にて訪問時に情報収集を図っている。また、就職担当事務職員と連携して情報収集している。 ②各職能団体からの情報や卒業生からの情報にて把握している。PT協会より学科卒業生が日本集中治療医学会学術集会で理学療法部門賞を受賞との情報をいただいた。			

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>専任教員と就職担当事務職員で連携して就職支援を行っている。PT・OT・ST学科の就職説明会は7月と10月に県内施設は対面形式、県外施設はリモート形式にて開催した。介護福祉学科は10月に対面形式で開催した。就職活動に必要な指導についても専任教員にて行っている。</p> <p>退学率は学院全体で3.3%と、一般大学における退学率10%や医療系養成校調査値（PT約18%・OT約20%、看護10%）と比較しても低い値である。入学前プログラムによるでは昨年まで外部資源を活用していたが、学力補完よりも関係づくりが重要だと考えて専任教員にて行う内容へ見直しを行った。さらに入学前三者面談を行い良い手ごたえがあった。施設見学も企画したが3月は施設側の受け入れが厳しいことから入学後早期実施することになった。</p> <p>出席状況や成績不審者については従来通り複数回面談ならびに保護者との情報共有を行いながらにより状況を把握し分析し中途退学の低減に向けて個別対応を行なった。また、おもと会の「心と体のヘルスケアセンター」の案内を入学時やホームルーム等で紹介し協力頂いている。</p> <p>入学式後に保護者に向けて教育課程や卒業要件などに関する説明会を行なっている。また、学生後援会総会を実施しており意見を伺っている。</p> <p>学力不足、心理面等の学生の問題解決に当たっては保護者との連携を密にしている。卒業生からの再就職・キャリアアップ・研究活動については個別に相談対応している。</p> <p>就職進路相談については全ての学生に対して個別相談を実施している。</p> <p>卒業生からの再就職・キャリアアップ・研究活動については個別に相談対応している。</p> <p>入学前の履修科目に対して学則に従って単位認定している。</p>		<p>PT・OT・ST学科は7月と10月の2回、介護福祉学科は8月にそれぞれ就職説明会を実施。</p> <p>入学前教育プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科オリジナル課題・クイズ ・三者面談 ・施設見学 ・交流会 <p>学生のメンタルヘルス対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころとからだのヘルスケアセンター <p>学院独自の奨学金制度</p> <ul style="list-style-type: none"> 大浜方栄奨学金制度 <p>その他の奨学金制度</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本学生支援機構 教育訓練給付金 高等職業訓練促進給付金

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	①就職など進路支援のための組織体制を整備しているか ②担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか ③学生の就職活動の状況を学内で共有しているか ④関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか ⑤就職説明会等を開催しているか ⑥履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか ⑦就職に関する個別の相談に適切に応じているか	4	①②③最終学年担当教員と就職担当事務職員で連携している。 ④⑤PT・OT・ST 学科は7月と10月に開催した。介護福祉学科は10月に就職説明会を実施した。 ⑥⑦学科毎で主に専任教員が窓口となり、希望する領域に精通する教員等も関わり対応している。	⑥専門家から必要な情報収集や指導方法の学習機会	専門家へのセミナー依頼	学生進路一覧 就職説明会資料

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	①中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか ②指導経過記録を適切に保存しているか ③中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか ④退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	4	①②学科長・副学科長および担任にて個人面談を行い、退学理由を明確にして記録している。 ③④入学前に学院環境に慣れていただくため「入学前学習会や交流会を行っている。個々に合わせた対応を行っている。適宜「心と体のヘルスケアセンター」に協力していただいている。	業者提供の入学前学習教材の実施率が低く、分析結果がうまく活用されていない。	業者の教材活用を中止し、各学科にて入学前学習会や交流会の内容を見直し、新プログラムを実施する。	過去3年間の退学者数・退学率 過去3カ年間の入学者、退学者、休学者、在籍者数 個人面談資料 心と体のヘルスケアセンター案内

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	①専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか ②相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか ③学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか ④相談記録を適切に保存しているか ⑤関連医療機関等との連携はあるか	4	①おもと会「心と体のヘルスケアセンター」が設置されており、入学時やホームルーム等で紹介している。 ②③学内に専用の相談室はないが、場所と時間を工夫しながら対応している。 ④面談記録は担当者にて保管している。 ⑤心と体のヘルスケアセンターを介して対応している。			
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	①留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか ②留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか ③留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか ④留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	4	①～④専任教員は配置していないが、通常の学生同様に担任を中心に計画的に個別面談、必要に応じて学習支援、生活支援を実施できている。また、留学生に限らず、面談記録は記載・保管できている。 また、週1回の外部講師による日本語講座を実施している。			

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	①学院独自の奨学金制度を整備しているか ②学費の減免、分割納付制度を整備しているか ③大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか ④全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか ⑤公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか ⑥全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	4	①④⑤ 学院独自の奨学金制度 大浜方栄奨学金制度 その他の奨学金制度 日本学生支援機構 教育訓練給付金 高等職業訓練促進給付金 ②校納金滞納者に対して個別相談に応じている ③被災生徒等授業料減免規程を整備している。また、高等教育修学支援新制度の認定申請を行っている。 ⑥学生の支援制度利用実績は把握している。			学生募集要項 奨学金案内 学院便覧 被災生徒等授業料減免規程

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	①学院保健計画を定めているか ②学院医を選任しているか ③保健室を整備しているか ④定期健康診断を実施して記録を保存しているか ⑤有所見者の再健診について適切に対応しているか ⑥健康に関する啓発及び教育を行っているか ⑦心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか ⑧近隣の医療機関との連携はあるか	4	①定期健康診断、予防接種計画を定めている。 ②学院長が学院医を兼務している。 ③保健室は整備している。 ④定期健康診断の記録は本人と学院で保管している。 ⑤有所見者への対応は各学科の担任を通して行なっている。 ⑥医師等による講義の中で行っている。 ⑦⑧おもと会「心と体のヘルスケアセンター」にて専任の医師、臨床心理士、保健師が相談に応じている。必要時、医療機関につないでいる。			学院便覧 教育事業計画書 保健室利用記録 心と体のヘルスケアセンター資料

5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	①遠隔地から就学する学生のために寮を整備しているか	4	①寮は完備していないが不動産情報を紹介している。			学院案内 生活安全講習会資料
---------------------------------	---------------------------	---	--------------------------	--	--	-------------------

5-19 (3/3)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	①クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか ②補助金の交付等具体的な支援を行なっているか	4	①教員が顧問となりクラブ活動等の団体の活動状況を把握している。 ②クラブ活動承認に応じて学生後援会から補助金が支給される。			学生後援会資料 学院案内

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<p>①保護者会の開催等、学院の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか</p> <p>②個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか</p> <p>③学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか</p> <p>④緊急時の連絡体制を確保しているか</p>	3	<p>①新入生保護者向けの説明会を実施した。在校生ならびに最終学年向けの保護者説明会等を開催し情報提供を行っている。</p> <p>②学力不足、心理面等の問題解決にあたっては保護者との連携を密にしている。</p> <p>③緊急時の連絡先は確保している。</p>			学院便覧 学生後援会資料 三者面談記録

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	①同窓会を組織し、活動状況を把握しているか ②再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか ③卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	4	①理学療法・介護福祉学科では学科毎に同窓会が結成されている。 ②個別の相談に対応している。 ③学科毎に専門領域の教員にて対応している。			
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	①社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか ②図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか ③社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	4	①入学前の履修科目に対して学則に従って単位認定している。 ②休日に学生ホールの開放を行っている。図書室は平日 22 時まで開館している。 ③社会人現役生にかかわらず個別相談を実施している。			学院便覧

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・設備・機器類等は基準を満たしている。令和5年度入学生よりタブレット貸与ならびに電子教科書を使用のため、Wi-Fi環境構築3か年計画計画を立て、順次工事を行っていく。施設・設備・教育用具等の整備を継続的に行っている。創立時整備した備品などの保守点検は引き続き行っている</p> <p>学外実習については、マニュアルを整備し、実習の意義や評価基準を明確にしながら指導者と協議しつつ教育効果について確認している。</p> <p>実習施設とは、実習指導者会議を開催し情報共有ならびに協議を行い、外国人留学生に対しては、実習先毎に学生レディネスの情報提供を行っている。介護福祉学科では、実習終了後の報告会に臨床実習指導者へ参加案内を呼びかけている。</p> <p>学院防災計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているが、教育については不十分である。</p> <p>また、施設・建物・設備の耐震は確認している。消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき適切に対応している。防災訓練を定期的の実施し記録を保存している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・・創立時に整備した備品等の保守点検整備を行う。 ・ 防災教育講座の定期開催 ・ 事故等対応マニュアルの作成。 	<p>エレベーターを地震時管制運転システムへリニューアルした。</p>

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	①施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか ②図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか ③図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか ④学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか ⑤施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか ⑥手洗い設備など学院施設内の衛生管理を徹底しているか ⑦卒業生に施設・設備を提供しているか ⑧施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか ⑨施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	4	①基準を満たしている。半期に一度もしくは必要に応じて備品点検、補充品の洗い出しを行っている。指定規則改定に伴う施設・設備・教育用具等の整備を引き続き行っている。 ②③整備されて充実している。 ④コロナ禍の対応のため昨年度に引き続き教室として使用した。次年度再整備を計画している。 ⑤計画的に取り組んでいる。 ⑥教職員および学生による清掃に加えて手洗い設備は業者による清掃委託している。 ⑦⑧適切に対応している。 ⑨電子教科書導入に伴い年度毎のWi-Fi環境整備計画を立てて整備を順次行っている。	・創立以来の備品等の保守点検・整備 ⑤合理的配慮による環境整備を引き続き実施予定	・既存の施設・設備・教育用具等の点検・整備の継続 ・指定規則改定に伴う施設・設備・教育用具の確認ならびに事業計画への反映	学院便覧 教育事業計画書 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則 言語聴覚士学校養成所指定規則 社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、 の実施体制を整 備しているか	<p>①学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか</p> <p>②学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか</p> <p>③学外実習について、成績評価基準を明確にしているか</p> <p>④学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか</p> <p>⑤学外実習等の教育効果について確認しているか</p> <p>⑥学院行事の運営等に学生を積極的に参画させているか</p> <p>⑦卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先等に行事の案内をしているか</p>	4	<p>①～⑤マニュアルを整備し、実習の意義や評価基準を明確にしながら指導者と協議しつつ教育効果について確認している。</p> <p>④適宜、臨床実習指導者会議を開催し、連絡・協議を行っている。また、外国人留学生の実習については実習先毎に学生レディネスの情報提供を行い、円滑に遂行できるよう対処している。</p> <p>⑤実習終了後の報告会に参加案内を呼びかけている。</p> <p>⑥、⑦適時情報提供し参加協力していただいている。</p>			<p>学院便覧</p> <p>実習要綱</p> <p>実習指導者会議議事録</p>

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	①学院防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか ②施設・建物・設備の耐震化に対応しているか ③消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか ④防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか ⑤備品の転倒防止など安全管理を徹底しているか ⑥教職員・学生に防災研修・教育を行っているか	4	①学院防災計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備している。 ②施設・建物・設備の耐震は確認している。 エレベーター地震時管制運転システムへリニューアルした。 ③消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき適切に対応している。 ④防災訓練をコロナの影響で一部実施できなかった。実施した内容は記録を保存している。 ⑤本棚などの転倒防止対策は教務室から順次実施している。 ⑥防災教育を年に1回行っている。			
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	①学院安全計画を策定しているか ②学生の生命と学院財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか ③授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	3	①学院安全計画を策定している。 ②防犯体制整備のため、名札着用の義務付けや外部からの出入口への防犯カメラを設置した。避難経路をエレベーターホールに掲示した。 ③研修会を実施したがマニュアルは作成している。	③事故等に関するマニュアル作成ができていない。	③委員会にてマニュアルを検討する。	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	④担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか		④専従ではなく兼任の実習担当教員にて管理し、学科内教員で協力して実施している。			

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集活動について、高校・本校・業者等各主催の進学説明会説明会にて教育活動や職業紹介等の情報提供を行っている。周知方法としては学院案内パンフレット・ホームページならびにブログや SNS を活用している。入学時期等については高校からの情報等を参考に入試検討委員会にて、入試内容や日程等を計画している。</p> <p>入学相談等については、電話や・LINE を活用し個別にて対応した。</p> <p>入試方法については、志願者の状況に応じて、4 種類の入学試験方法を実施している。</p> <p>合否判定は入学選考の公平性を確保している。受験者数・受験倍率・合格率・辞退率のデータは適切に管理している。</p> <p>学納金は九州・沖縄の養成校と比較して水準は高くない金額である。</p> <p>学納金等徴収する金額は、諸経費もすべて募集要項にて明示している。</p> <p>オープンキャンパスの規模を縮小し、学校説明・入試説明・職業理解と各種目的別オープンキャンパス企画し、頻度を増やし、希望者の都合が調整しやすいように計画実施した。</p>		<p>学校説明や個別相談を、電話に加えて LINE を活用した。</p> <p>平成 21 年度より、職業委託訓練生を受け入れている。毎年定数の学生を受け入れ、資格取得を生かせるよう職業教育とキャリア教育及び就職支援において、先進的な制度の開発とその改善に取り組んでいる。</p> <p>ミニオープンキャンパスの実施。</p>

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	①高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか ②高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか ③教員又は保護者向けの「学院案内」等を作成しているか	4	①高校・本校・業者等各主催等進学説明会説明会にて教育活動説明や職業紹介等の情報提供を行っている。 ②高等学校教職員向け学校説明会を実施し、入試結果や倍率、国家試験合格率・就職状況等の実績報告、募集要項の説明を行っている。 ③教員や入学希望者及び保護者に向けて学院案内パンフレット・ホームページを作成している。また、ブログや SNS を適時更新し、日常的な学院生活が伝わるよう努めている。			職業理解のためのパンフレット 進学説明会日程表 学校説明会資料 学院案内パンフレット 学院ホームページ SNS(twitter・Facebook・YouTube・LINE・Instagram)
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	①入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか ②志願者等からの入学相談に適切に対応しているか ③学院案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか ④広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	4	①入試検討委員会を開催し、前年度の振り返りや高校からの情報等を考慮し、内容、日程等を計画している。 ②電話や LINE 等を活用し、問い合わせ・個別説明で積極的に対応している。 ③学院案内パンフレット・ホームページにおいて本学院の特長や教育内容、国家試験合格率・就職率の実績等の学修成果について正確に分かりやすく紹介している。 ④ガイダンス等の個人情報は担当事務が適切に管理している。			学生募集要項 学院案内パンフレット 学院ホームページ

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	⑤体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか ⑥志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか	4	⑤オープンキャンパスを、学校説明・入試説明・職業理解と各種目的別に8回開催した。TVCMやWEB広告を活用した広報活動を展開した。 ⑥志願者の状況に応じて、総合型選抜、推薦型選抜、特別選抜、一般選抜を実施している。			オープンキャンパス資料 学生募集要項

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	①入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか ②入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか ③入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	4	①入学選考基準や方法は、内規で定めている。 ②入学選考等は、内規に基づき適切に運用している。 ③合否判定は判定会議で決定し入学選考の公平性を確保している。			合否判定会議資料
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	①学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか ②学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか ③学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか ④財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	4	①受験者数・受験倍率・合格率・辞退率のデータは適切に管理している。 ②入学者の傾向について把握し、授業方法の検討資料としている。 ③前年実績を踏まえて、応募者数・入学者数の予測数値を算出している。 ④財務等の計画数値と応募者数の予測値等との予算書を作成し整合性を、図っている。			学校説明会資料 ・応募者数 ・合格者数 ・合格率 ・辞退率

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	①学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか ②学納金の水準を把握しているか ③学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	4	①学納金の内容は明確で、学納金等徴収する金額はすべて募集要項に掲載している。 ②九州・沖縄の養成校と比較して水準は高くない金額である。 ③学納金等徴収する金額は、諸経費もすべて募集要項にて明示している。			
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	①文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	4	①文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、入学辞退者には入学金以外の授業料等の返還を行っている。			

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本年度はすべての学科で定員を満たすことができなかった。</p> <p>学院及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しており、適切に財務運営を行っている。</p> <p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、予算未執行の部分と、感染対策等や老朽化対応として予算外費用が発生したが、順調に運営することができた。</p> <p>財務情報については当学院ホームページにて公開している。</p>	<p>定員を満たすことができなかった原因を探るため、在校生や高校の先生等および有識者等から情報収集を行う。全教職員で情報収集ならびに原因分析を行うため、「沖リハブランド再構築ブレインストーミング」を行い、改善計画に反映する。</p>	<p>経営会議（経営戦略会議 4 半期に 1 回） 沖リハブランド再構築ブレインストーミング</p>

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学院及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	①応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか ②収入と支出はバランスがとれているか ③貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか ④事業収支計算書の当年度事業収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか ⑤設備投資が過大になっていないか ⑥負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	4	①応募者数・入学者数の推移は資料にしている。 ②収支のバランスはとれている。 ③翌年度繰越収入差額はプラスである。 ④事業収支計算書の当年度事業収支超過額はプラスである。 ⑤設備投資は、適切である。 ⑥負債はない。	①すべての学科で定員を充足することができなかつた。介護福祉学科では30名の	①在校生や高校の先生および有識者等から情報収集を行う。情報収集ならびに原因分析を全教職員で行うため「沖リハブランド再構築ブレインストーミング」を行い、改善計画に反映する。	医療法人おもと会定款 決算理事、評議員会資料 入学試験兼応募者数推移
8-28-2 学院及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	①最近3年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか ②最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	4	①事業活動収支・貸金収支等の資料を月次作成、4半期ごとに法人本部と財産分析を行っている。 ②財産目録・貸借対照表も適宜分析を行い、後任会計士への確認している。			医療法人おもと会定款 決算理事、評議員会資料

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	③最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか ④キャッシュフローの状況を示すデータはあるか ⑤教育研究費比率、人件費比率の数值は適切な数值になっているか ⑥コスト管理を適切に行っているか ⑦収支の状況について自己評価しているか ⑧改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか	4	③負債は無い。 ④月次で資金収支計算書を策定している。 ⑤比率は適切な数值になっている。 ⑥光熱費の省エネに努めて物品購入等は予算内の費用管理を徹底している。 ⑦⑧収支の状況は経営会議資料を毎月本部へ報告し改善が必要な場合は、今後の財務改善計画を策定している。			

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	①予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか ②予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	4	①予算編成に際して、教育目標、教育事業計画との整合性を図っている。 ②予算の編成過程及び決定過程は明確になっている。			
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	①予算の執行計画を策定しているか ②予算と決算に大きな乖離を生じていないか ③予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか ④予算規程、経理規程を整備しているか ⑤予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか	4	①②③予算執行計画を作成し概ね予算どおり執行しているが、建物の老朽化のため修繕費等が予算超過となり適切に補正措置を行っている。 ④経理規程は整備されている。 ⑤予算執行にあたって決裁の体制を整備しチェックすることするなど適切な会計を処理している。			

8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 適切に監査を実施しているか	①適切に監査を実施しているか ②監査報告書を作成し理事会等で報告しているか ③監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか ④監査時における改善意見について記録し、適正に対応しているか	4	①医療法人おもと会の定款に基づき、適切に監査を実施している。 ②監査報告書を作成し理事会等で報告している。 ③監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施している。 ④監査時における改善意見について記録し、適切に対応している。			医療法人おもと会定款 決算理事、評議員会資料

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	①財務公開規程を整備し、適切に運用しているか ②公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか ③財務公開の実績を記録しているか ④公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	4	①財務公開規程を整備し、適切に運用している。 ②公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成している。 ③財務公開の実績を記録している。 ④公開方法についてホームページに掲載するなど積極的に公開に取り組んでいる。			医療法人おもと会定款 決算理事、評議員会資料

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令及び設置基準に基づき、学院運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っている。ハラスメント防止ガイドラインを作成している。コンプライアンスに関する相談窓口は設置していない状況である。</p> <p>毎年、弁護士による研修会を実施している。</p> <p>個人情報保護方針および規定を定めて適切に運用している。学籍管理についても教員ごとにパスワードを設定している。</p> <p>学生・教職員・非常勤講師は個人情報保護に関する承諾書を提出している。また、各学科にて学生向けに講義を行っている。</p> <p>学院の概要や教育理念および目標と教育課程表についてはホームページ等で広く公開している。また学院生活や行事ならびに授業の様子もブログで公開している。</p> <p>情報セキュリティポリシー規程、SNS 利用に関する注意事項、無線 LAN 利用に関する規程の運用に加えて、次年度より docomo ビジネスソリューションによる ICT 教育を導入することにより、セキュリティーを強化する。</p>		

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ① 関係法令及び設置基準等に基づき、学院運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか ② 学院運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか ③ セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか ④ 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談窓口を設置しているか ⑤ 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか 	4	<p>①関係法令及び設置基準に基づき、学院運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っている。</p> <p>②学内 Wi-Fi 整備利用によるトラブルが発生したため、情報セキュリティポリシー規程、SNS 利用に関する注意事項、無線 LAN 利用に関する規程を作成した。</p> <p>③ハラスメント防止ガイドラインを作成している。</p> <p>④コンプライアンスに関する相談窓口は事務所が担っている。</p> <p>⑤法令順守に関する研修を顧問弁護士にお願いして実施している。個人情報保護ならびに著作権および肖像権を含む情報リテラシーに係る画一的な研修を行っている。</p>			<p>理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則</p> <p>言語聴覚士学校養成所指定規則</p> <p>社会福祉士介護福祉士学校指定規則</p> <p>医療法人おもと会定款理事会・評議委員会記録</p> <p>学院便覧</p> <p>教育事業計画書</p> <p>ハラスメント防止ガイドライン</p> <p>情報セキュリティポリシー規程</p> <p>SNS 利用に関する注意事項</p> <p>無線 LAN 利用に関する規程</p>

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学院が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<p>①個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか</p> <p>②大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか</p> <p>③学院が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか</p> <p>④学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか</p>	4	<p>①②個人情報保護方針および規定を定めて適切に運用している。学籍管理についても教員ごとにパスワードを設定している。</p> <p>③学院ホームページは管理会社と連携し情報管理を講じている。</p> <p>④学生・教職員・非常勤講師は個人情報保護に関する承諾書を提出している。また、各学科にて学生向けに講義を行っている。</p>			<p>学院便覧</p> <p>実習要綱</p> <p>個人情報に関する基本方針</p> <p>個人情報保護に関する規程</p>

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	①実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか ②実施にかかる組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか ③評価結果に基づき、学院改善に取り組んでいるか	4	学則及び規定を整備し、定期的に全学で取り組んでいる。			
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	①評価結果を報告書に取りまとめているか ②評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	ホームページにて公開している			
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	①実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか ②実施のための組織体制を整備しているか ③設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか ④評価結果に基づく学院改善に取り組んでいるか	4	体制を整備し評価を行っている。			
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	①評価結果を報告書に取りまとめているか ②評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	ホームページにて公開している。			

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	①学院の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか ②学生、保護者、関連業界等広く社会に公開しているか	4	ホームページにて広く公開している。			

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>行政や大学等の地域より専門職としての助言や講義を求められるようになってきた。また、市町村における介護予防事業等へ講師として派遣している。実習病院や各職能団体とも連携しながら運営している。</p> <p>臨床実習や OSCE を臨床の療法士や介護福祉士と共同で実施している。</p> <p>介護人材養成講習会講師派遣や修学支援を通して雇用促進に寄与している。</p> <p>学院施設については、学院運営に支障をきたさない程度に施設利用を受け付けしている。</p> <p>高等学校が行うキャリア教育に対する貢献として、職業理解や職業人理解の講師派遣を積極的に行った。また、高校等の要請に応じて授業を実施した。</p> <p>学生ボランティアの機会は提供しているが、成果としての記録が不十分であることが分かった。</p> <p>他、学生向けの外部からの講師派遣を活用している。</p>	<p>企業や職能団体や行政との情報交換を行いながら学院として行える社会貢献・地域貢献を開発していきたい。</p> <p>学生ボランティア活動等の学外活動の成果記録方法等を整備していきたい。</p>	

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<p>①教育機関や関係団体や地域と連携・交流を図り、社会・地域に貢献しているか</p> <p>②企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか</p> <p>③学院施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか</p> <p>④高等学校や大学等が行う授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか</p> <p>⑤学院の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか</p> <p>⑥地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか</p> <p>⑦教職員・学生に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修、教育に取り組んでいるか</p>	4	<p>①各学科ともそれぞれの養成する専門職として社会・地域に貢献している。</p> <p>②臨床実習や OSCE を臨床の療法士や介護福祉士と共同で実施している。</p> <p>③開放している。</p> <p>④高等学校における職業理解や職業人理解の講師派遣を積極的に派遣している。また、大学等の非常勤講師として協力している</p> <p>⑤高校からの要請により授業を実施している。</p> <p>⑥市町村からの派遣依頼に対して、介護予防教室等の講演を行っている。 小学生を対象とした親子で夏休み自由研究を実施した。</p> <p>⑦地域の関係者や臨床ならびに当事者等に講義していただいている。</p>			<p>学院便覧 修学支援 教育訓練給付金 高等職業訓練促進給付金 施設使用規定 県内就職説明会資料</p>

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	①ボランティア活動など社会活動について、学院として積極的に奨励しているか ②活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか ③ボランティアの活動実績を把握・評価・活動結果の学内共有	3	①②医療・福祉関連の施設からのボランティア募集を案内している。 ③ボランティア活動の実績把握・評価・共有は行なわれていない。	ボランティア依頼や活動実績はあるが、記録として整理されていない。	ボランティア依頼文書のデータベース化やボランティア活動記録簿。ボランティア活動証明書等の作成	

4 令和5年度重点目標達成についての自己評価

令和5年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1. 「真・善・美」の全人教育の実施</p> <p>2. 教育目標の達成</p> <p>3. 国家試験合格率全国平均以上の水準を目指す</p> <p>4. 就職率 100%</p> <p>5. 学院運営の安定</p> <p>6. 学生支援の充実</p>	<p>1. 教育理念を踏まえて各学科における教育目標達成に向けて教育計画を状況に応じて変更の上で概ね実施できたが、法令遵守に関する啓発や学習等の未達成があった。</p> <p>2. 教育目標達成のため「自己学習の習慣化」「在学中の支援」「臨床（臨地）実習」を、状況に応じて Office365 の導入を行ったが、知識・技術を常に主体的に深める態度を習得するための教育方法の導入が必要である。</p> <p>3. ほぼすべての最終学年の学生全員が国家試験を受けることができ、新卒の PT 学科・ST 学科・介護学科日本人学生の合格率が全国平均を上回った。</p> <p>4. 就職希望者就職率 100%を達成することができた。</p> <p>5. 言語聴覚学科以外の学科で入学定員を満たすことができなかった。</p> <p>6. 昨年同様、学生支援にて休学・退学者を低水準で維持できた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 知識・技術を主体的に深める態度を習得できる教育方法の開発実施 ● ICT 教育の活用 ● 1・2年で勉強方法を確立するため取り組む。 ● 最終学年で国家試験対策に乗れるよう分析と対策ならびに個別面談等を実施する。 ● 就職活動に必要なスキルの教授を外部専門家に依頼 ● 学院運営の安定化を図るための受験生確保 ● 休学・退学・留年者を防止するための学生支援の充実 ● 入学前プログラム内容や活用方法を共有する